

一右2が74%，左3一右3が26%であった。今まで記載のなかった幼体の体色と斑紋は成体と全く同一で、頭部が黒く5本の白線が走る。剖検したところ、5個体の雌で卵黄を蓄積した大きな卵が卵巣又は輸卵管中に見られ、その卵数は2—5個であった。3月と8月のいずれの場合にも輸卵管中に卵を持つ雌が得られ、雄の精巣の大きさにも季節的変動が認められなかったので、繁殖は年中行われるものと思われる。

## 20. 北海道檜山地方におけるカナヘビの生殖生態 竹中 踐 (筑波大・生物)

Reproduction in the Japanese lacertid *Takydromus tachydromoides* in northern Japan. Sen Takenaka

北海道の南部、檜山地方の上ノ国において5月、7月、9月にカナヘビを採集し、その卵巣等の観察によって生殖サイクル等を調査した。カナヘビは関東地方の平地では生まれた翌年の繁殖期間に最初の生殖を開始する。上ノ国では、同じ北海道の札幌におけると同様に、生まれた翌年の繁殖期間は生殖を行わずに成長を続け、2年目の繁殖期間から生殖を開始した。また年間産卵回数は2回でこれも札幌と同じであった。しかしながら一腹卵数は平均3.5卵で札幌よりも顕著に少なく、むしろ関東地方のものに近い。一腹の卵の総乾重量は体長との有意相関を示した。一腹卵総重量の平均は札幌の方が上ノ国よりも大きい。両個体群のその体長との相関関係は似た傾向を示し、一腹卵総重量の両者の差は生殖雌の体長組成の差を反映したものと考えられた。1卵の平均乾重は北海道のものの方が関東地方（横須賀・猿島）のものより著しく重く、上ノ国のものの方が札幌のものよりやや重かった。生殖のためのエネルギーの一部は脂肪体と肝臓に貯えられていると考えられているが、本調査でもその事が確かめられた。生殖を行わない1年目の雌の肝臓の重量も繁殖期間に低下したが、その事は生殖を行わなくてもこの期間に栄養物貯蓄が機能しないことを示唆した。

(大会記録終り)